



愛郷無限

土屋館
どや
だて 通信

発行者：大曲・花火通り商店街
文責：辻

お問い合わせ：080-1265-7035
tuck-t@akita-tsujiya.jp

2014年09月23日号 NO.493

写真提供：大崎市

Subject：汝なにのためにそこにありや

先日、高校のOB会がありました。歴代の先輩達が勢揃いされる中、後身として私もご一緒させていただき、様々な薫陶をいただきましたが、ある方のご挨拶の中で、その高校に代々受け継がれる幾つかの言葉が紹介されました。

凡学生だった私は、非常に情けないことながら高校時分に聞いたときにはそれほど心に響いておらず、そのまま時を過し、いつしか記憶の彼方にしまい込んでおりましたが、今、改めて聴くと、本当に心の奥底に響いてくる言葉であり、身震いを覚えるほどでしたのでここにご紹介します。

【汝 何のためにそこにありや】

いつ、どんな時、どこで、誰に、この問いを寄せられても即座に断言できる自覚ある生活を送ってもらいたい。

【連帯を求めて 孤立を恐れず】

最初の言葉は昭和40年に鈴木健二郎校長がハーバード大学の高名なジョンソン教授の言葉を引用し、生徒達への戒めとして薫陶され、当時の学生達によると、挨拶の最後には必ずこの言葉を絶叫し締めくくっていたそうです。以後校訓として受け継がれている言葉だそうです。

二つ目は全共闘や学生運動に影響を与えた、詩人・評論家の谷川雁の言葉です。

そしてさらに、大曲中学校の校歌に歌われ、長く校訓として受け継がれている【よく生きよ】という哲学の根本を成す言葉。

改まって考えると、先人の学と徳の高さ、そして毅然として生きる姿勢、つねに生きる意味を追い求める姿勢に感嘆の声をあげざるを得ません。

こんな話をすると、何をたいそうらしいと不快に思われる方もいることでしょう。でもね、でも、出来ないかもしれないけれど、答えが見つからないかもしれないけれど、常に意識し、関心を持ち、考え続けること。

皆で声に出し、様々なことがらの根本に必ず持つておかねばならないこと。

まちづくり活動の根本でもあるはずだと信じています。